

高校生ライフスタイルと被服行動に関する調査研究（第3報）  
 高校生ライフスタイル特性と被服行動特性との関連  
 奈良女大家政 中川早苗 岐阜女大家政 ○大喜多佐代子  
 県立会津短大 松浦悠紀子 文化女大家政 万江八重子

目的 大衆消費社会の発展に伴い、「モノから心へ」「ハードからソフトへ」といった言葉で表現されるように、人々の価値観は物質的豊かさだけでなく、精神的、文化的豊かさをより重視するようになり、ライフスタイルの多様化、個性化が進展している。衣生活においても量よりも質を重視する傾向が高まり、被服行動の個性化、ファッション化が進展している。本報では、高校生ライフスタイル特性と被服行動特性との間に関連が見られるのではないかと考え、基本属性、ライフスタイル特性を説明変数として、被説明変数である被服行動特性との関連について分析を行い考察を試みた。

方法 調査の概要および調査項目は第1報、第2報と同じである。データの集計、分析には、男女別、学校別、学年別、地域別、ライフスタイル別クロス集計、および数量化Ⅱ類の手法を用いた。

結果 クロス集計結果から $\chi^2$ 値、クラマー値をもとにライフスタイル特性と被服行動特性との間の関連をみると、生きがいや日常関心事、余暇行動、生活態度、1ヶ月の小遣い、生活満足度など多くの項目で被服行動特性との間に高い関連がみられた。例えば親しい異性や友人、仲間との交流に生きがいを感じ、生活態度でも革新的で変化に富んだ生活を望み、交際範囲が広く外出好きで、趣味にお金をかけ、交際範囲が広く、小遣いの額が多い者ほど、ファッション情報への関心も高く、流行やおしゃれに積極的でブランドを重視し被服にお金をかける者が多い。男女別、学校別、学年別、地域別にクロス集計を行い、 $\chi^2$ 値をもとに検討した結果、多くの項目で有意差がみられた。